

# 令和四年 第二十二期くまもと俳句ポスト

第二十二期開函

俳誌「阿蘇」主宰 岩岡 中正 選

特選

水鳥の楽園江津湖底透けて

福岡県宗像市

井上 眞知子

【講評】

「水鳥」とは俳句では、鴨などの水上に浮かぶ鳥のことで、冬の季語です。とても平明な（わかりやすい）句で、江津湖を「水鳥の楽園」と、手放しで讃えています。「底透けて」で終るこの句のしらべ（リズム）にも、旅を楽しむ作者の心の弾みが見えます。

わが輩通り賞

冬の月古墳に残る紅と玄

熊本県熊本市

貴田 雄介

入選

菊花展菊池一族出陣す

熊本県熊本市

佐藤 誠吾

田原坂少年兵も見た緑

福岡県福津市

楠 すなを

小春日や我が右腕は母の杖

熊本県八代市

清水 明美

佳作

空堀のそこらこころで虫の声

福岡県福岡市

栗下 純也

野路の秋吾が後ろより影来る

熊本県熊本市

鶴田 信吾

猫の守る漱石句碑や冬うらら

長崎県諫早市

篠崎 清明

球溪きゅうけいの故郷の山河柿赤し

熊本県熊本市

山崎 綾子

電停にハーンの鞆そぞろ寒

神奈川県横浜市

武田 かつら

せんこうの花火できようそうまけないぞ

熊本県熊本市

村上 恵麻

紅葉の闇を彩る刑部邸

熊本県熊本市

坂口 美穂子

炎天の成趣園に楠一本

石川県金沢市

辻 佑樹

風鈴や足ぶらぶらと縁側に

熊本県熊本市

矢野 友子

則天去私てふ墨黒々と漱石忌

長崎県上戸町

吉田 志津子

投句総数 百三十五句

市内 六十一句

市外 七十四句

開函日 令和四年十二月三十一日